

# 富田林市下水道事業経営戦略（素案）の概要

## 1. 経営戦略策定の目的

「経営戦略」は、公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である。その中心となる「投資・財政計画」は、施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画（投資試算）と、財源の見通しを試算した計画（財源試算）を構成要素とし、投資以外の経費も含めた上で収入と支出が均衡するよう調整した中長期の収支計画である（経営戦略ガイドライン改訂版）。

本市においても、一層の経営基盤を強化するための取組みを推進する基本計画として、「富田林市下水道事業経営戦略」を策定する。なお、計画期間は、令和元(2019)年度～令和10(2028)年度の10年間である。

## 2. 将来の事業環境

### ① 水洗化人口の予測

本市では、「富田林市人口ビジョン」が策定されており、令和10(2028)年度には、水洗化人口は約93,000人となる見通しである。(図1)

### ② 有収水量の予測

令和10(2028)年度の有収水量は約25,900m<sup>3</sup>/日と、現状の約93%となる見通しである。(図1)

### ③ 使用料収入の見通し

使用料を据え置いた場合、令和10(2028)年度の使用料収入は、上記の年間有収水量予測結果に比例して減少し、約12億7千万円となる見通しである。

### ④ 施設の見通し

現有管路のうち、老朽化管路は0%、経年化管路は約11%であるが、全く更新事業を実施しない場合、40年後にはそれぞれ約23%、約60%となり、健全管路は約17%となる。(図2)

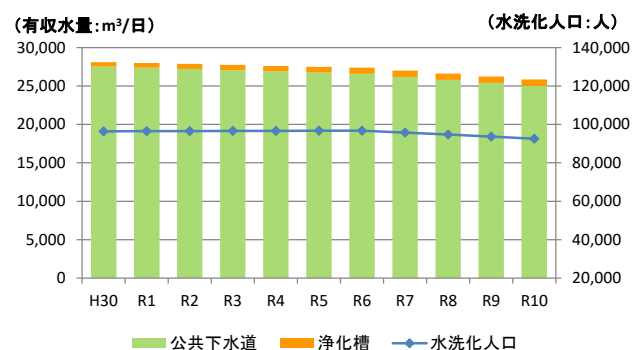


図1 富田林市の有収水量と水洗化人口予測

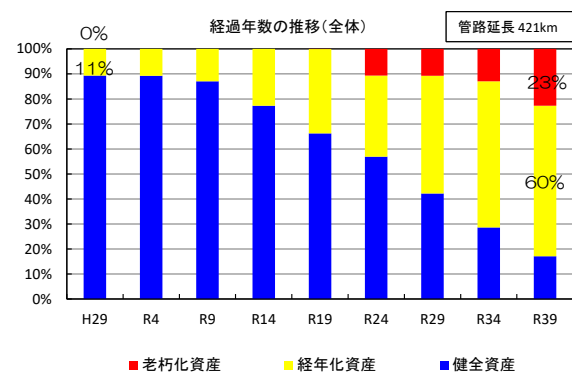


図2 管路の健全度推移

## 3. 経営戦略

経営戦略では、「投資試算」と「財源試算」の収支均衡を図る必要がある。収支均衡の定義は、計画期間内で黒字となること。ここでいう黒字は、事業を安定的に継続するために必要な施設・設備に対する投資を適切に見込んだ上での黒字となる。また、安定的に事業を維持出来ることが望ましいとされている。

### ① 投資試算

下水道施設の新規整備については、未普及促進を中心に事業を進めるとともに令和6(2024)年度に概成を目指す。また、老朽化対策については、第2期長寿命化事業として、金剛東地区・加太五軒家地区の污水管更生を進めるとともに、金剛地区を中心とする雨水管更生事業への投資を進める。

表1 投資計画

区分		概要	R1~R10 総額
未普及地域の整備	下水道	下水道整備区域における下水道の整備	約43.8億円
	浄化槽	浄化槽整備区域における浄化槽整備	約3.9億円
老朽化対策	下水道(分流污水)	第2・3期長寿命化計画により、既設管の更生等	約11.0億円
	下水道(分流雨水)	金剛地区の既設管の劣化調査や更生等	約13.0億円
流域下水道建設負担金		府流域下水道の建設に係る市町村負担金	約4.0億円
その他		建設投資に必要な事務費等	約4.5億円
合計			約80.2億円

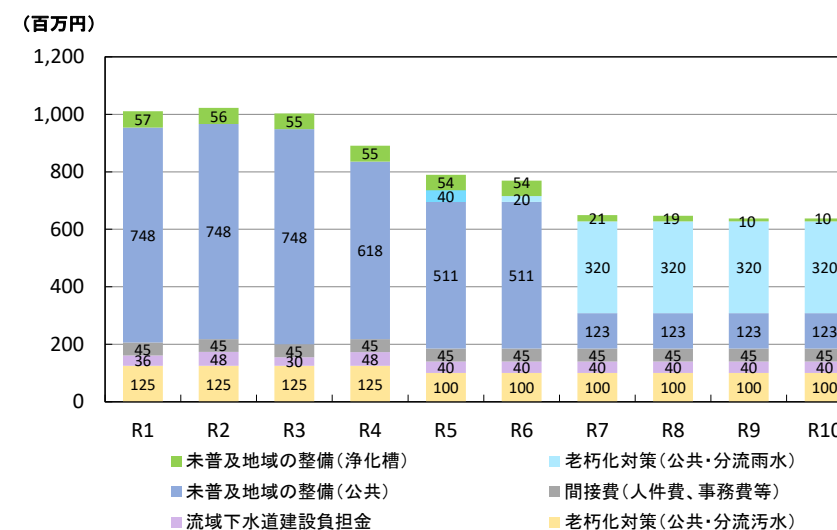


図3 年度別事業費の推移

# 富田林市下水道事業経営戦略（素案）の概要

## ② 財源試算

### (1) 現状使用料水準での財政シミュレーション

現状使用料水準で、シミュレーションした場合の見通しを以下に示す。なお、起債充当率は建設改良費から補助金と負担金を控除した後の金額の95%とする。

また、令和元(2019)年度以降は企業会計化に伴い「独立採算制」の観点から基準外繰入金は見込まない。

- ・令和元(2019)年度以降、支出が収入を上回り赤字となる見通しとなった。
- ・企業債残高は、令和10(2028)年度において48億円程度減少する見通しとなった。
- ・資金残高は、基準外繰入を行わない場合、建設投資の財源確保ができなくなる見通しとなった。

➡ 「投資試算」と「財源試算」にギャップが発生

### (2) 経営戦略に基づく財政シミュレーション

「投資試算」と「財源試算」の収支ギャップを埋めるため、使用料水準の適正化及び投資の合理化等を検討し、財政シミュレーションを行った。なお、推計期間は、令和元(2019)年度～令和10(2028)年度（10ヶ年）とする。

表 2 財政シミュレーション結果

項目	説明	
使用料収入	31%増とする必要がある	
起債充当率	建設改良費から補助金と負担金を控除した後の金額の95%	
基本 条件 充足	経営状況（経常収支比率）【目標：100%以上（推計期間全てにおいて黒字経営維持）】	103.9%
	資金残高【目標：令和10(2028)年度における使用料収入1ヶ年程度確保】	20.1億円
	経費回収率【目標：100%以上】	107.3%

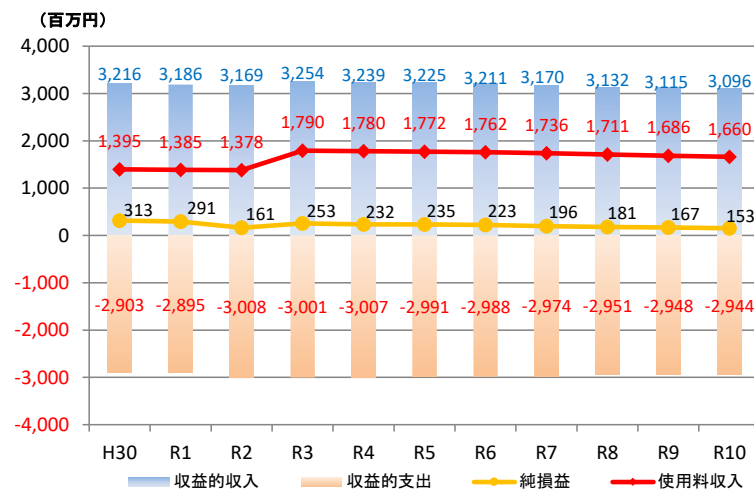


図 4 収益的収支の推移

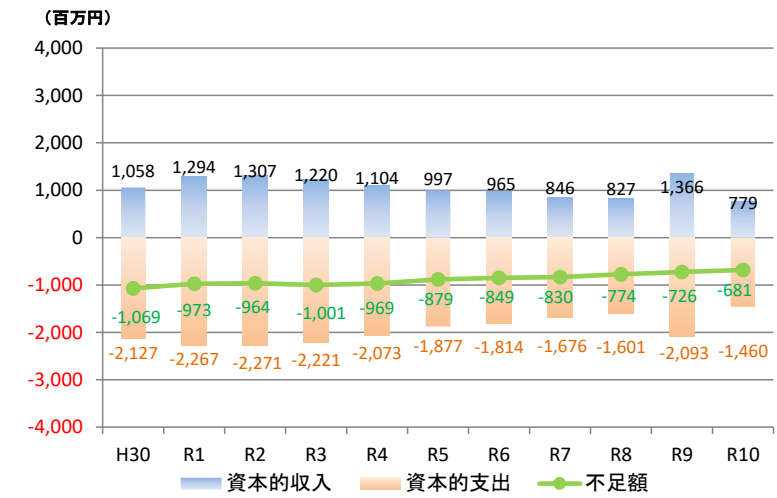


図 5 資本的収支の推移

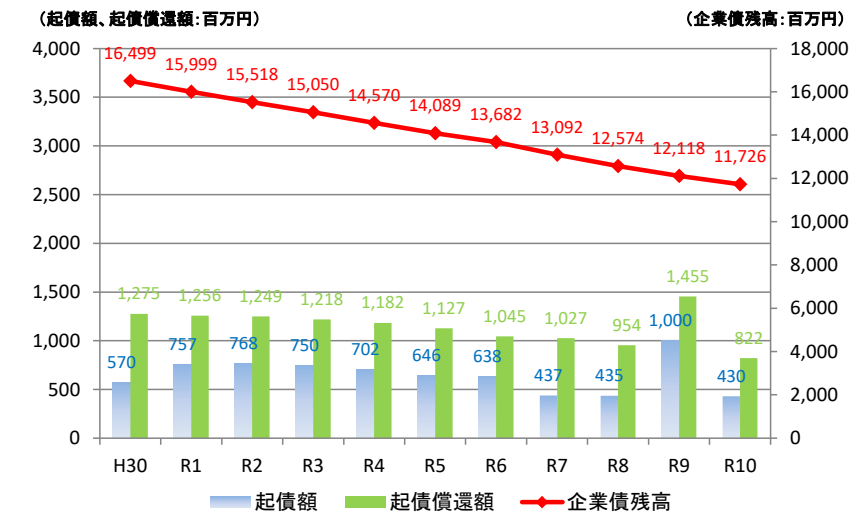


図 6 企業債残高等の推移

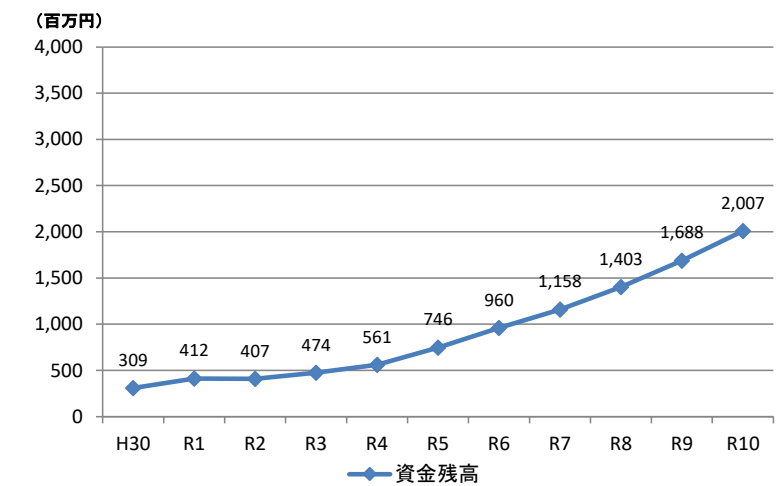


図 7 資金残高の推移